

竜田舎秋錦編『新增補浮世絵類考』序

- 一 浮世絵類考は、笹屋邦教〔割註 称新七郎、本銀町壱丁目に住して縫箔屋を業とす〕山東京伝の編にして、(注2)式亭三馬の書入あり。
- 一 同附録は、寛政十二庚申年邦教の編にして、三馬の書入あり。
- 一 同追考は、享和二壬戌年京伝の編にして、三馬の書入あり。
- 一 以上三部の写本、(注3)大田蜀山先生の蔵本にして、文政の始め先生の書入あり。
- 一 続浮世絵類考は、天保四癸巳冬根岸の隠士無名翁の編とあり。按るに、浮世絵師溪斎英泉の輯なり。左に誌せる三部を一つとなし、洩たるを集めて二巻とせしなり。
- 一 (注4)弘化元甲辰白雪堂月岑子、此書を再び補ひて、増補浮世絵類考と題し、そが上に猶補ひ正されしは、頭書等にこまかに書加へあれども、又洩れたる事なきにしもあらず。巻中混乱して見るに煩しきが故、今其の系譜を巻の始に出し、洩れたるを少く補ひて、新增補浮世絵類考と題す。且月岑子の編には、無名翁の(注5)序文、土佐家の系譜を誌すといへども、長文にして且拙し。故にこれを闕く。然りといへども、未だ全しとするに足らず。尚識者の後考を俟つのみ。

慶心戊辰春

竜田舎秋錦 識

(注1) 「浮世絵類考」の原撰は大田南畝である。成立は寛政七年(一七九五)〜同十二年(一八〇〇)五月以前。(『大田南畝全集』は『浮世絵考証』と表記)この記述は斎藤月岑編の『増補浮世絵類考』と同じである。

(注2) 三馬の按記は文政元年(一八一八)から文政四年の間と思われる。(本ホームページTop「浮世絵類考」所収の「三馬按記」参照。)

(注3) 大田南畝(蜀山人)が、以上の三部を一本としたのは、文政元年(一八一八)六月晦日。

(注4) 「弘化元年」は、天保十五年(一八四四)。十二月の改元である。なお、月岑自身の序は「天保十五年春」としている。

(注5) 先に斎藤月岑は『増補浮世絵類考』において、溪斎英泉の『無名翁隨筆』(『続浮世絵類考』ともの序文にあたる「大和絵師浮世絵之考」と「吾妻錦絵の考」から、まず「吾妻錦絵の考」を削除し、また、「大和絵師浮世絵之考」の方は「絶倒すべき語もありしが文長ければ大方中略せり」として一部省略していた。それを、竜田舎秋錦の『新增補浮世絵類考』では、さらに進めて、「大和絵師浮世絵之考」そのものを削除している。なお「吾妻錦絵の考」および「大和絵師浮世絵之考」は、本ホームページTopの「浮世絵類考」に収録してある。

(注6) 「慶心戊辰」は、明治元年(一八六八)。改元は九月。

(注記は本ホームページの制作者・加藤の注です)